



学校だより

しもかまた

令和6年9月2日第5号
江戸川区立下鎌田小学校
校長 黒澤 義和

父と娘 贈り合う「200点」

校長 黒澤義和

7月19日(金)の1学期終業式で、安全に元気に充実した夏休みを過ごし、9月2日(月)の2学期始業式に全員元気に登校しましょうと約束しましたが、44日間の夏休みを思い思いに過ごした子供たちが元気に学校に戻ってきました。始業式での子供たちの表情からは、2学期も頑張ろうとやる気満々な様子が感じられ、とてもうれしく思いました。

今年の夏は、記録的な猛暑とゲリラ豪雨、台風、大きな地震等により、改めて自然災害の恐ろしさを実感させられました。一方、パリオリンピックでの日本選手の活躍や夏の甲子園、地元・関東第一高等学校の快進撃に、熱い感動をもたらした夏でもありました。7月30日(火)の朝刊で『父と娘 贈り合う「200点」』という見出しが目に留まりました。この記事では、パリオリンピック女子スケートボードで、金メダルを獲得した吉沢恋さんと父・功さんとの親子関係について紹介されており、大変興味深く読みました。スケボーの経験がない功さんですが、恋さんが7歳でスケートボードを始め以来、付きっきりで練習を指導してきました。練習に付き合うために保育士から、時間に融通が利く介護士に転職するほど恋さん以上にスケボーにのめり込んだそうです。ただ、パリ五輪の予選が本格化する中で、五輪まで1年となった時、「こうしろ、ああしろ」と言うばかりで、恋さんの考えが聞けていないことが気になりました。限られた時間の中で恋さんを急成長させるには、これまでの教え方を見直さなければいけないのでは…。自問した結果、指導方針を変え、練習後の反省会で「今日のコーチングは何点だった?」と必ず尋ね点数とともにその理由を聞くことにしました。これまでの最低点は0点。「感情的に怒っているだけ」と痛烈に返されたり、55点と言われたときは、「教えてくれた内容は感謝している。でも、怒った感じの言い方が嫌」と指摘されたりしました。それでも、ただ1度だけ200点をもらったのは、「こんなやり方があるんじゃないか」と選択肢を複数示した時だったそうです。「以前は10を教えていた。でも、今は5を教え、5を引き出す。」恋さんがお父さんに思ったことを言えるようになったことで、親子で一緒に高め合う関係となり、恋さんは急成長、見事に五輪最終予選で優勝し、世界ランキング1位でパリ五輪に挑み見事に金メダルを獲得しました。余談になりますが、なるほど……、とこの記事に共感していると私が子供の頃(1970年代~80年代前半)にやっていた「お笑いオンステージ」というテレビ番組でやっていた「減点パパ(後に減点ファミリーに改名)」というコーナーのことを思い出しました。司会の三波伸介さんが、芸能人の子息から親の顔の特徴を聞きながらホワイトボードに似顔絵を描き、ご本人が登場すると三波伸介さんが描いた似顔絵がよく似ているのに驚かされました。その後、親子の会話を通じ子から親への不満が噴出し、どんどん親の評価が減点されてしまいます。しかし、三波伸介さんの人間味あふれるトーク力により、最終的には、親子円満に導かれてしまう。と言った番組だったように記憶しています。低学年の子供たちからは、お父さん・お母さん大好きという声がたくさん聞かれますが、学年が上がり思春期に近づくにつれ、子供の親を見る目が厳しくなる傾向にあるのでしょうか?高学年の保護者の中には、親子関係に悩まれている方が少なくないかもしれません。吉沢恋さんのお父さんの話を参考に、お子さんとのかかわり方を見直してみたいはいかがでしょうか。

さて、今日から2学期がスタートしました。年度当初に掲げた重点課題、「学力向上」「心の教育の充実」「体力・健康力向上」の3本柱の達成状況を1学期末にお伝えしましたが、学力等テスト結果、児童アンケート結果などから取組の成果が見られています。2学期は、音楽会、運動会などの学校行事が多い学期となりますが、これらの行事を通して今年度の重点課題のさらなる向上を目指してまいります。今後とも保護者の皆様、地域の方々のご理解・ご協力をお願いいたします。

